

（前ページから続く）

支援者と学校側・担任間のコミュニケーション不足。

校長・教頭の無関心。

教師（出張中）の代行など“学習補助の域”を超える支援要請。

英語学習支援の取組み

神林 幹夫（国際 5期）

グループわの小学校学習支援に新しく英語学習が加わりました。文科省の方針のもと神戸市教育委員会が具体的に動き、イングリッシュサポーター制度を発足させました。

教委がネイティブスピーカー、近隣大学の語学関係学部学生を募るほか、グループわにも協力を求めてきたのです。

支援委員会ではこのほど英語学習支援グループを立ち上げ、これに応ずることとなりました。

この10月から希望小学校5校、わの支援委員7名で滑り出したばかりで実績など報告できる段階ではありませんが、活動を充実させるためサポート可能な登録会員を求めています。

英語を教え込むということだけでなく、英語に慣れ親しむ活動を支援しようということです。学校現場では戸惑いも多いようですが、先生を助け一緒に考えていく喜びもあるかもしれません。勿論英語教員資格など必要ありません。

支援グループの研鑽集会を持ち、互いの経験を語り合いながら、より良いサポーターを目指したいものです。

やってみようという方、わの事務所までご連絡くださるようお願いいたします。

戦争体験語り部活動大繁盛！

濱岡 吉孝（福祉 4期）

終戦から年月が流れて久しい。日本人は戦争で自身が受け、そして他に与えた筆舌に尽かせないような痛手を忘却の彼方に置き去り、平和を謳歌し、平和の有難さに無感覚になっている。

私たち（昔あそび研究会）戦争体験者は「子や孫

の代に戦争がもたらす非情さ、悲惨さを語り継ぐ必要があるのではないか。神戸市民が直接痛烈に受難した“神戸大空襲”のことを語り継ごう」と話し合い、語れるその時を待っていた。そんな折、平成13年に神戸市立星和台小学校6年生、社会科の授業「戦争と平和を考える学習」で戦争体験者の体験談を聞きたいという要請を受けた。早速、「神戸大空襲」の話をしたところ、極めて好評で、以後8年間時期がくるとこのテーマを同校で語り継いできた。

平成17年“わ”の本部事業の一つとして子どもたちの学習支援活動が立ちあげられ、学習支援委員会の活動が始まった。この委員会によって神戸市教育委員会や神戸市小学校校長会で「語り部活動」が紹介され、平成20年度には星和台小を含め雲雀が丘小、渦が森小、若草小の4校に、平成21年度にはこの4校に道場小、宮本小、竹の台小が加わり7校となった。右肩上がりの要請増加を嬉しく受け止めるとともに今更ながら学習支援委員会の影響力の大きさを痛感している。

実施校では私たちが語っている間、子どもたちがどの子も食い入るような眼差しで聞いてくれているのが心に強く残っている。そして何よりも感銘を受けたことは担任の先生から「私たちも子ども達と同様戦争を知らない世代です。神戸大空襲の体験談をお聞きして、戦争がもたらす非情さ、悲惨さに心をゆさぶられました。これからは私たちが語り部となって平和の有難さを子らに伝えていきたい。」という主旨の言葉をお聞きしたことである。

これからも“わ”の学習支援委員会の援助、協力を得ながら、語り部も研鑽を重ね、より正確にわかり易い語りを続けたいと考えている。

第3回「学習支援者の集い」開催案内
 日時：平成21年11月27日（金）
 13：30～16：30
 場所：シルバーカレッジ 2F 5-6 学習室
 議題：(1) グループディスカッション（成功例の紹介や課題解決のための話し合い）
 (2) その他情報交換・連絡
 学習支援活動には、特別な資格は不要です。
 在校生、一般の方の参加を歓迎します。興味ある方はぜひ覗いてください。